ハ先輩ノ行爲ヲ學ビシカ、附シテ後考ニ備フ、

〔常山紀談附錄雨夜燈〕權現樣駿府に御隱居遊され、大御所樣と申奉る、台德院樣○德川秀忠江戸より駿府へ御出なされ、二の丸に二ケ月餘御滯留なされ候節、權現樣、阿茶の局を召て、將軍には年若き人なり、旅住居二ケ月になりぬ、夜中徒然なるべし、花を使にして菓子をもたせ、裏道より忍びやかにやれ、もし慰にも成ぬべきなり、我云たると聞れなば隔心あるべし、汝が心得に能はからへと仰せられければ、阿茶の局、御心の付たる上意なりと御請して、花其比十八歳、女中第一の美人なりしを、殊に取繕はせ、下女に菓子をもたせ、初夜の比、裏道より密に參らせけり、內々阿茶の局よりかくと申ければ、台德院樣、御上下をめし待せ給ふ處に、花參りて御庭の戸をおとづれければ、台德院樣御自身戸を明られ、花を上座に直し、菓子を御取、是は大御所樣より下されたるなるべしとて、御いたゞきなされ、花早々歸られ候へと仰られ、先に御立なされ、戸口まで御送りなされければ、花兼てたくみしと違ひて、いらへの詞もなく歸りて、かやう〳〵なりと申ければ、權現樣聞し召、將軍は律義第一の人なり、我はしごをかけても及がたしとぞ上意ありける、

〔常山紀談二十〕周防守重宗○板倉京都の職に有こと、凡三十餘年、人敬ふ事神明の如く、愛する事父母に似たり、○略中重宗職に任じて後、毎日決斷所に出る時、西面の廊下にして、遙に伏拜む事有て、決斷所に出、此所に茶磨一ッする置、あかり障子引たて、其內に坐し、手づから茶ひきて訟を聞、人皆不審しあへりけるに、遙に年經て後、問人有しに、重宗答へ、先決斷所に出る時、西面の廊下にて、遙に拜する事は、愛宕山の神を拜する也、多くの神の中、殊に愛宕は靈驗新なると聞し程に、所願ありてかくは拜しぬ、其所願は今日重宗が訴をことわらんに、心の及ぶほど、私の事あらじ、若あやまりて私の事あらば、忽ち命をめされ候へ、年頃深く賴み奉るうへは、少も私心有んには、世にながらへさせ給ふなと、毎日祈誓するにて候、又訴をわかつ事の明かならぬは、我心の事にふ